

大用現前

第23号

筆入れ：高一郎代表

2017年5月吉日発行

発行人：サトウ・クロサワ・オオサワ・
オオツカ・カンノ・
カワグチ・クリバヤシ・
ヤマモト編集長
(PJ6 ザビ9)

代表インタビューから

世間では新学期を迎え、「入学式」や「入社式」というように多くの方がどこか新たな場所へ踏み出しています。皆さんもそれぞれ、入学式や入社式の思い出があるかと思えます。私もこの季節になると学生時代の思い出、社会人になったときの思いを振り返って懐かしみ、青々しい気持ちになります。今年は、松本ほたるさんが当社に入社されましたね。毎年、新入社員の方が入社されることに素晴らしいと感じながら、みなさんも先輩としての姿を模索しているのではないのでしょうか。

新入社員の方と親睦を深めるきっかけになったと言え、社員旅行「今年3月に入社された高橋瑞紀さんと、4月に入社された松本ほたるさんも参加してくれました。」
今回は、そんな「社員旅行」に対する思いについて、代表に直接お伺いしました。

カインズグループの社員旅行は34年前「雑木上」から始まり、今まで毎年欠かさず開催されてきました。知人にこの話をすると、「羨ましい、珍しい」と言われることが多いです。日本の会社全体でみても、これだけ社員旅行を大事にしている会社は少ないようです。

このように、他の会社でも開催されることのない社員旅行ですが、なぜカインズグループは違うのでしょうか。それは代表の社員旅行に対する思いにあります。そもそも社員旅行は何のためにあるのでしょうか。



当たり前のことかもしれませんが、私たちは普段会社で業務を行い、お互いに自分達の家で生活していると思います。つまり、会社になるまでの顔がその人の顔に希薄になってしまつ可能性がある、ということによって社員旅行の出番です。代表は、社員旅行で皆さんがリフレッシュをし、普段会社では見ることのできない顔をのぞかせてくれることを期待しています。皆さん、今回の社員旅行で大いにリフレッシュできましたか。私は、泊まりで行く社員旅行が入社してから初めてでしたので、皆さんの普段とは違う顔をたくさん見ることができました。

ようです。その時その時で旬、流行のものもあります。また季節や人間関係も大切な材料になります。それは、個人で旅行をされる際も同じではないでしょうか。今年はどこに行こう。何が食べたい。誰に会いたい。そんな思いを巡らせるのも旅行の醍醐味です。代表がその時選んだ場所どんな思いをもっていったのか、今後のチェックポイントにしたいです。

さて、社員旅行が行われる理由、場所選びについてお話ししてきましたが、もし社員旅行自体ができなくなったらということも皆さんは考えたことがありませんか。今回そこにも代表の強い思いを感じることができました。他の行事をなくしても社員旅行は最優先に行いたい。

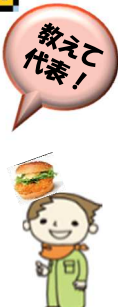
代表のこの言葉を聞き、毎年遂行できていることに感謝しなければいけないと感じました。同時に、普段の業務に対する責任を再認識しました。親和会行事ではありますが、もちろん会社の業績によって左右され、行くことができなくなってしまう恐れもあります。私たち自身がそのことを理解し、業務に努めていくことが代表への感謝を伝える一番の方法であると考えています。また、それが結果としてカインズグループの発展・飛躍につながっていくと確信しています。

来年は噂によると海外旅行の年、ハトナムのハノイに行ける機会がやってくるかもしれません。それは先ほどもお話ししました。

↑雑木の旅行先一覧を見て、物思いにふける代表

だが、私たち自身の行動で変わるはず。自分の置かれている立場や環境は皆さんそれぞれ違いますが、向かっていく方向は「一緒のはずです。これを機に、カインズグループを見つめ直しましょう。そして、また新たな気持ちをもって、皆さんで「一歩前に踏み出していきましょう。」

記事 クロサワ



Q&A

～フライベイト編～

●人付き合いのコツは？

自分から飛び込んで、隠せず話すこと。けどガツガツし過ぎるのはダメ。

ロータリーは年配の方が多くので、人付き合いの勉強になった。

●人生の最後に食べたいものは？

奥様の「豚タタ」。

松月のカレーチャーハンも捨て難い。

代表の旅行と言えば「世界遺産巡り」。毎年の年賀状でご覧になっている人も多いはず。

皆さんにも旅行のちょっとした「こだわり」はありますか？

社員旅行

石和名湯館 糸柳



甲斐国一宮 浅間神社

サントリー
白州蒸溜所



シャトー勝沼



リニア見学センター



富岳風穴



鳴沢水穴



大石公園



ほうとう研究所

代表後記

今回は社員旅行についてインタビューをしたことやらと全疑の気持ちで臨みましたが、いざ始まると34年前の金誠会時代から欠かさず続く親和会の大事な行事であることに改めて気づかされました。泊一夜、仲間と共にすることで普段話さない仲間とコミュニケーションを取り、ぶつかり合ったり、わだかまりを解きほぐす大事な時間であります。さてお小遣いのことについて話をさせて下さい。お小遣いは旅行が何回か続いたところで特にパート社員さんの何人かが参加しない時期がありました。誤を聞けば、満足なお金もなく買物ができないとのこと。ならばということ、参加を促すためにお小遣いをあげようという会社側の心配りで渡したものです。ある日、参加しない社員にはお小遣いを減らしても良いのではないかとこの議案が提出された際、参加できないものにも平等に返せ「など」と言う発言がでるような環境になり、まるでお金を返してもらおうが権利のようになってしまう。社員は美質(一人千円、平年度の会費)で、二年の親和会活動へ参加をしてもらっており、ほとんどは会社が負担しております。子供にまだまだ手が届かぬ母親社員もいるのも理解をしていますが、その子育てがひと段落つければ是非、積極的に親和会活動へ参加して下さい。

FY17では21、22、23号を発行してきました。皆さん、いかがでしたか？
まだまだとは思いますが、お付き合いいただきありがとうございました。